

教職の魅力創造プロジェクトにおける成果 令和4年度「小学校教員体験セミナー」を振り返って

井上 文（山形県教育庁高校教育課指導主事）

1. 小学校教員体験セミナーと教職の魅力創造プロジェクトについて

教員は日々子どもたちの成長に携わることができる大変魅力的な職業ですが、本県でも教員志願者の減少は大変深刻な状態にあり、教員を目指す若者の確保が急務です。そのことを踏まえ、県教育委員会では、令和2年度から小学校教員に興味を持っている高校生を対象にした「小学校教員体験セミナー」を実施しており、今年度3年目を迎えました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、体験活動は2校に制限されましたが、今年度は無事4校で実施することができました。今年度も引き続き地域教育文化学部の先生方始め大学生、大学院生の皆様より多大なる御支援を賜り、心から感謝申し上げます。

事前オリエンテーションでは、昨年度に引き続き、地域教育文化学部の野口徹教授の御講義や大学院教育実践研究科の森田智幸准教授及び大学生・大学院生とのグループワークを通して、参加した高校生は小学校での体験活動に向けて授業を見る視点をより明確にし、意識を高めることができました。また、小学校では、校長先生による講話と激励、配属クラスでの児童との交流や学習支援を行い、教えることの素晴らしさ、難しさを体験することができました。体験活動当日も大学の先生方、学生の皆様には終始サポートや声掛けをいただき、心から感謝申し上げます。

「実体験」がもたらす生徒の変容は想像以上に大きいものです。今回の体験を通して、小学校教員への思いがより一層強まり、進路意識が高揚したという生徒も多く、その変容に改めて体験の意義を感じております。

また、本プロジェクトには、対話的で協働的な学びの場として「学びのフォーラム」や「聞き書きプロジェクト」も設定されております。教職を目指す高校生が、これらを積極的に活用しながら教職の魅力ややりがいを発見し、ゆくゆくは小学校教員養成系学部・学科へ進学し、将来は本県初等教育の発展に貢献してもらいたいと願っております。

2. 「教職の魅力創造プラットフォーム会議」に参加して

昨今教職の魅力ややりがいといったものをどのように伝えていくかということが課題となる中で、本会議は、大学教員、教育行政、学校関係者、大学生、高校生が一堂に会し、それぞれの視点から教員の魅力を整理し、魅力創造に向けてプロジェクト全体の方向性を決めるという、非常にフラットに意見を交わせるプラットフォームであると感じています。「教員になりたい」という強い意志を持つ、未来の地域教育の担い手の育成のために、それぞれの所属で何ができるのか共に考え、連携及び発信することができる全国でも類を見ない取組みです。

第2回会議では事業の在り方として、量的なものから質的なものへの転換が話題となりました。参加した生徒や学生がどう変容したかに注目していく点は非常に重要です。

県教育委員会としましても、未来の山形県の教育を支えていくため、教員の魅力化を今後も推進し、本会議の充実に向けて諸機関との連携を積極的に図って参ります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。